

わか草

第74号 令和7年4月1日
発行 東京都立東部療育センター
広報委員会
東京都江東区新砂3-3-25

院長就任のご挨拶

東京都立東部療育センター
院長 伊藤 昌弘



院長就任の挨拶
令和7年4月1日
当センターにて

2025年4月より院長を拝命いたしました伊藤昌弘です。私は大学病院などで研修後、都立豊島病院、都立府中療育センターを経て平成5年から都立墨東病院で25年間勤務しております。墨東病院在籍中や2018年4月の府中療育センターへの異動時には東部療育センターに多くの患者さんを紹介させていただきました。今回、東部療育センターで働く機会を得て、再び城東地区の医療に携わることができるとなると非常に光栄に思っております。

行事紹介

1月から3月の行事をご紹介します。

江東区障害者作品展に出展しました

2月18日から21日に、江東区文化センターにて、第43回障がい者作品展が開催されました。東部療育センターからも、10点の作品が集まりました。繊細なタッチの絵画や色鮮やかなカポチャのランタン、迫力満点のひまわり、思わず触りたくなるようなお花、力強い書道、乳幼児通所ほれぼれメンバーのかわいい手形、きれいな色使いの重層アート、宇宙のような世界観のマーブリングアートなど、素敵な作品がたくさん飾られ、来場者を驚かせていました。



色鮮やかな作品の数々
見ていて癒されます

(2階西病棟 大島)

当施設は2005年に東京都東部側地域にお住いの様々な障害、特に重度重複障害を有する方々のために医療と福祉を提供する中核的施設として東京都によって設立され、社会福祉法人全国重症心身障害児(者)を守る会が運営を行っています。初代院長は1992年設立の東京都立東大和療育センターでも院長を歴任された有馬正高先生で、開設準備から関わりを深く、岩崎裕治先生や椎原弘章先生が新型コロナウイルス感染症という過去に経験のない混乱期の中で安定・確立に尽力されました。その後、私に何が出来るか不安もありますが、障害児者医療の発展に一層の努力をいたす所存でございます。

全国重症心身障害児(者)を守る会の半世紀に渡る『最も弱いものをひとりももれなく守る』という基本理念と同様、東京都福祉局では「すべての市民が地域の中で安心して暮らせるよう、出産・子育てから高齢期に至るまで、ライフステージ全般にわたる様々なニーズに対応し、誰一人取り残さない社会の実現」を目指しています。『もれなく守る』と『誰一人取り残さない』は同じ意味とありますが、時代の流れで『地域の中で安心して暮らせる』ことが掲げられており、施設入所からはずれております。しかし、センターの方々が地域と交流することやセンター自身が社会貢献にかかわること、施設入所でも地域で暮らすことが可能だと思われ、そのためには今後何が出来るかを考えていきたいと思っております。

かもめ分教室卒業式

3月19日に東部療育センター2階プレイルームにてかもめ分教室小学部卒業証書授与式が執り行われました。保護者の皆様や院長先生をはじめ療育センターの皆様、教員に見守られる中、緊張しながらも6年生らしく立派に、校長先生から卒業証書を受け取っていました。



立派に卒業証書
を受け取りました

(かもめ分教室 光岡)

4月からは中学生として新たな一歩を踏み出します。小学校生活で培った力を糧に、さらなる飛躍を期待しています。



卒業式の様子
緊張感が伝わってきます

乳幼児卒園式

3月27日に令和6年度乳幼児通所ほれぼれの卒園式を行いました。令和6年度の卒園生は2名でした。椎原院長より堂々と卒園証書を受け取る様子から、立派に成長した姿が見えました。また、活動で行った「にじ」の歌を手話も用いて合唱したり、スライドショーを使って思い出を振り返ったり、心温まる感動的な式典となりました。式典後に卒園生を囲んで、お楽しみ会として大きなパラバルーンを行い、みんなの笑顔が溢れていました。

(乳幼児通所 木原)

福祉という言葉は、英語では welfare あるいは wellbeingで「快適に生きる」ことになります。快適に生きるために、利用者さんだけでなく職員も幸せになれるようにする必要があります。もちろん私個人でできることではなく、幹部と協力しながら院長として病院の運営等の責務を果たし、職員の皆様が楽しく仕事をしやすい療育センターになるよう全力を尽くす所存です。一方で職員が一丸となって利用者さんや患者さんに対して医療・療育だけでなく様々な支援を提供できるように心掛けてほしいと思います。また職員だけでなく、利用者さんや患者さん、その家族の方も東部療育センターを盛り上げていただきたいと思います。そして縁

令和7年度 事業方針

東部療育センターは、平成17年の開設以来、「全国重症心身障害児(者)を守る会」が東京都の指定管理者として運営を行っています。

今年度も引き続き、守る会の「最も弱いものをひとりももれなく守る」という基本理念のもと、手厚い医療・看護と介護が必要な都内の超(準超)重症児者を積極的に受け入れるとともに、区東部地域の障害児者を支援する中核的施設としての役割を担っていきます。事業の内容と規模はこれまでと同様、病棟は長期入所90床、短期入所24床、医療入院6床、外来は1日100人、通所は成人・乳幼児合わせて1日35人で運営いたします。

あつて職員が働いている場所、利用者さんや患者さんが入所・通院している場所、つまり東部療育センターに誇りを持てるようにしていきたいと思っております。このため何か質問や気になることがありましたら、ご意見をお聞かせいただければ幸いです。

最後に2025年は東部療育センター設立20周年となり一つの節目になります。企業でいう4つのステージ、創業期(黎明期)、成長期、成熟期、安定期、衰退期の中の衰退期ではなく、成熟期・安定期として、もしくは次のステップの再成長期になるため東部療育センターの運営を進めていきたいと思っております。何卒今まで同様ご厚誼ご支援を賜りますようお願いいたします。

また、地域療育等支援事業などを実施し、在宅療育の支援や地域の関係機関等との連携・支援を行います。事業の運営にあたっては次の5点を重点事項として取り組みます。

1. 高度な医療・療育・療養介護とライフステージに応じた多様な取り組み
2. 地域との連携強化と在宅支援の充実・強化
3. 専門人材の育成と活用
4. いきがいを持って働ける職場づくりと安定的な施設運営
5. 電子カルテ等システムの更新

(事務長 大野)

還暦を祝う会

今年度3階南病棟ではお1人、還暦を迎えお祝いする事ができました。午前はスナモの写真館に行き写真撮影を行いました。いつもと違う場所に緊張の表情もありましたが最後は満面の笑顔で撮影することが出来ました。撮影後はゲームセンターで遊んだり、おやつを買ったり普段できない体験を楽しみました。栄養科からは、ご本人が希望された、特別メニューのお祝いステーキ膳、苺のホールケーキを用意してもらい、笑顔で召し上がっていました。

アトラクションボランティアでのジャズコンサートでは声を出して楽しませていました。

(3階南病棟 中川)



ステーキ膳

写真の掲載の許可をいただいております。

今年度で17回目の院内研究報告会が3月12日(水)に行われました。今年度もプレイルームでの開催とし、研究報告2題、事例報告4題、業務改善1題の計7題のエントリーがありました。

第1部は診療部リハビリテーション科瀬川正恵さんの「腹臥位の実施が変形予防や筋緊張に及ぼす効果について」、診療部放射線科佐藤匠さんの「内臓脂肪蓄積が顕著であった重症心身障害者2例について」の研究報告と、療育部看護科由良明美さんの「重症心身障害児者施設において急増する骨折とその予防対策」骨折予防対策とその予防対策、骨折予防策ワーキンググループの設置と活動、佐久間恵さんの「療育部防災委員会の防災に対する取り組みについて」の事例実践報告がありました。

第2部は引き続き療育部から事例実践報告が2題、生活支援科藤崎智成さんの「個別支援計画に活かすMEPAILRの活用」、同じく生活支援科の高橋宏樹さんの「MEPAILRを用いたグループ編成による療育活動実践」が報告され、最後に看護科の鈴木翔子さんから「看護記録記載基準変更による実態調査」という業務改善報告がありました。



質疑応答では多くの質問が寄せられました

第1部、2部とも多職種で協働する研究内容もあり、他の職種からの質問も多くありました。質疑応答からセンター全体で取り組む姿勢を感じました。

審査は、抄録、発表資料、発表内容、質疑応答をポイントとして、審査委員により総合的に評価を行い、以下の研究が入賞しました。今年度は

「最優秀賞」のみの発表となつていきます。

【最優秀賞】

「重症心身障害児者施設において急増する骨折とその予防対策」骨折予防策ワーキンググループの設置と活動」
療育部 由良明美さん



最優秀賞の由良さん院長から表彰されました



今回の発表者と審査員の皆さん

(庶務係)

チーム紹介「防災PT」

当センターでは、多職種がチームを組んで行っている取り組みがあります。今回は「防災プロジェクトチーム」をご紹介します。

防災PT(プロジェクトチーム)は、防火・防災対策委員会の下部組織としてセンターの防火・防災対策に関する事項を検討・実施しています。

令和6年度の主な活動内容としては、総合防災訓練の実施、事業継続計画訓練(BCP訓練)および救護用担架訓練の実施、並びに防災備蓄品の見直し等を行いました。

総合防災訓練は毎年9月と3月に開催する防災訓練で、令和6年9月の総合防災訓練では南海トラフ巨大地震による「津波の発生」を想定し、センター全体での防災訓練や災害対策本部の運営訓練、人形を使った上階避難訓練等を行いました。

また、令和7年3月の総合防災訓練では首都直下地震を想定し、地震に伴う「火災の発生」を想定し、センター全体での防災訓練に加え、BCP訓練として電子カルテが停止した際の「紙カルテへの運用切替訓練」を行いました。

救護用担架訓練は、津波等水災発生の際には通所や外来の利用者様を上階に避難させる必要があるため、職員に救護用担架の使い方を覚えておくための訓練です。災害発生時には、普段、通所や外来の利用者様とあまり関わりのない職員も総動員して、上階へ避難する必要があります。

防災・防災訓練では、実際に起こる可能性のある設備破損による2次被害や大規模災害後の事業継続を視野に入れたBCP訓練を今後も実施していく予定です。

防災備蓄品の検討では、今年度の予算に基づいて購入する防災備蓄食料や水等について検討しました。災害時でも同じ食事ばかりにならないよう献立表を作成し、バランスの取れた食事となるよう工夫しています。今後とも引き続き、多種多様な災害に備えた対策が出来るよう、防災PTは活動していきたいと考えています。(防災PT 事務局)



災害対策本部の様子 本部も毎回反省を生かしやり方を見直しています

東部あれこれ

【1・2月】

東京の元旦は晴天に恵まれ穏やかな年明けとなりました。当センターでは、1月10日から17日まで認定看護師教育課程の研修生、20日から24日まで武蔵野看護大学の看護実習生、2月3日から19日まで共立女子大学の保育実習生、25日から3月12日まで東洋大学の保育実習生を受け入れました。また、1月と2月には、還暦を祝う会を利用者様の誕生日に行いました。

【3月】
3月になると一気に気温が高まり、春めいてきました。4日に地震と火災を想定したセンター全体の総合防災訓練、12日には院内研究報告会を実施しました。24日からは看護学生インターンシップを行い、6名の参加がありました。19日にはかもめ分教室の小学部1名の方が卒業し、27日には乳幼児通所2名の方が卒業されました。

(経営企画係)
今後、この評価を踏まえサービスの向上に努めてまいります。詳細につきましては、四月下旬頃インターネット「福祉ナビ」で公表されます。ホームページからもご案内いたします。



加藤様、ありがとうございました。

辞令交付式

令和7年4月1日付の新規採用および異動者は、医師1名(院長)、看護師8名、生活支援員2名でした。辞令交付式の後には全体研修を行い、「家族のお話」にはたくさんの方々が集まりました。今年度は加藤様に、これまでの経験されたこと、ケアの大変さ、東部に入所されてからのことなどスライドを用いてお話いただきました。

加藤様のお話を時に思い返し、寄り添うことを心掛けて、それぞれの業務を日々行ってきたと思います。なかなかこのようにお話を伺いする機会がないため、大変貴重な時間となりました。

院長退任

令和7年3月31日付で椎原先生が院長を退任しました。退任後も名誉院長として当センターに携わり、診療につきましてもこれまで同様に行ってまいります。今後当センターの運営にご理解ご協力をお願いいたします。



椎原名誉院長

編集後記

当センターでは新たな職員を迎え、12月には20周年を迎えます。これまで開設からたくさんの方々が関わり、作り上げてきた東部療育センターを更によりよい施設にするため今後職員一同協力してまいります。

(広報委員会 事務局)



「これまでのわか早をご覧になりたい方はこちらからどうぞ」

令和6年度 福祉サービスクラス 第三者評価 結果概要

サービスの内容、組織のマネジメント力等の評価を行い、その結果を公表する福祉サービスクラス第三者評価ですが、今年度は、「株式会社日本生活介護」に依頼して行いました。

評価方法は、定められた評価基準と手順を基に行われ、場面観察やアンケート結果も反映されています。ご家族の皆様にはアンケートへのご協力ありがとうございました。

ここでは、全体の評価講評について報告します。

【特に良いと評価された点】

①地域のセーフティネットワークの役割を果たすとともに、利用者の自分らしさを現に組み込んでいる
②様々な課題に応じた部会やワーキンググループを設置し、利用者支援や業務水準の向上に向けた組織的な取り組みが展開されている

【入所・通所共通】

①職員採用や働きやすい職場環境作りへの取り組みを着実に実施し、成果につなげていくことに期待したい

【入所】

②ホームページのさらなる活用として、提供する情報内容の充実を図り、利用者実際の活動の様子を伝えるようにしていくことに期待したい

【改善が望まれる点】

③定期的な広報誌の発送や家族懇談会、行事への参加など様々な機会を通じて家族との交流の場を設けて良好な関係が維持されている

【通所】

③現在のセンターにおけるスペース活用方法に改善の余地があると思われるため、設備面での改善を含めた対策の検討に期待したい

③医療型障害児入所施設として、地域の医療や福祉関係機関と高度な療育技術や知識を共有すべく地域連携のさらなる強化を期待したい

【通所】

③現在のセンターにおけるスペース活用方法に改善の余地があると思われるため、設備面での改善を含めた対策の検討に期待したい

【入所】

②ホームページのさらなる活用として、提供する情報内容の充実を図り、利用者実際の活動の様子を伝えるようにしていくことに期待したい

(経営企画係)